

大東町春殖地区

Q 1 1 9 [防犯灯緊急設置事業の進捗について]

防犯灯の設置の件、大東町120基で、春殖の方でも要望の分がほとんど叶ったようだ。工事がその後どのようなになっているか、それだけ聞きたい。

A

市内369基ということで現在設置を進めている。11月中旬位に発注し、年内にはかなり進むと思う。ただ専用ポール立てる分については、引き込み線工事とかがあるので若干時間がかかると思う。9月議会で補正予算措置で369基分全て対応できるようにした。その後県との事務的なやり取りで若干時間がかかっている訳だが、ここにきていよいよ工事の発注という事になった。(総務部)

6. [行財政改革]

吉田町吉田地区

Q 1 2 0 [市有遊休施設用地の適切な活用について]

市の施設の使用料も値上がりをしているが、その費用が遊休施設の維持管理費に充当してあるように感じている。施設によっては思い切って取り壊すことも必要であると思う。

先般、取得しようとした市の土地が常識以上の高額であったが、実態を踏まえた価格の設定、提示が必要ではないかと思っているがいかがか。

A

公共施設については、市内には約300箇所あるが、その中には効果的な面から中止、休止をしている施設もあり、遊休施設の見直しに現在取り組んでいるところである。合併効果を発揮するためにも、効果的な施設活用が必要と考えており、休止、活用中止、無償等の譲渡、民間への譲渡、売却等を含めて見直しを実施していきたい。ご指摘のあった市有地の払い下げについては、具体的にどこなのかまた後で伺って、効果的な譲渡の仕方が出来るよう努力してまいりたい。(市長)

掛合町掛合地区

Q 1 2 1 [総合センターのあり方]

役場が合併し、警察(派出所)、商工会も統合されるなど、掛合は様々な諸団体の統括する場所が全部三刀屋や木次に出てしまい寂れてきた。また、耕作放棄地なども見えるようになってきて、色々なところから「合併によって良いことはなかった。」という声があがってきている。

住民の意識を変えていかなければならないということは判っているが、市としては今後、総合センターの人員配置をどのように考えているのか。中心のほうに職員を集約していくのか、ある程度総合センターとして残しておいて、住民の意見を吸い上げる組織として活用していける方向付けができていくのか伺いたい。

A

合併の目的のひとつは、財政強化を図ることによって住民サービスをさらに充実するということがひとつ。そのためには、6町村、共通の仕事があり、給与計算などの共通業務をひとつに束ねれば、今まで10人で行っていたことが例えば半分でできる。また、同じような仕事をするために6町村似たような建物がある。1箇所にとまれば、遊休施設として民間に譲渡するとか色々なことができる。ということ合併したことで、やっぴいかなければならない。

6町村にいた職員をできるだけ本庁にまとめるということはやむをえない。今後、どの程度まで行なうのかであるが、総合センターとして住民の皆さんの声をしっかりキャッチし、現場でなくてはできない、そういった声をしっかり把握するニーズは残さないといけない。

掛合総合センターを今後何人にするのかという、確定的な数字は固めていないが、あるべき人数はどのくらいにしたいということは現在検討中である。

先ほど言われたことをしっかりと受け止めながら、さらなる合併効果をもたらし、そのことによって職

員を引き上げるだけでなく、住民サービスの低下をきたさないことが必要である。今よりも人数が減ることはやむをえない。

それではその見返りはどうするのかということであるが、地域と行政が力をあわせて行なっていくことで地域自主組織の活動がある。これは行政が行なっていたことをやめて、自主組織が行なうと言うことでは決してなく、今まで行政も地域自主組織も行なっていなかったことに取り組むことによって新たな賑わいをもたらす。例えば現在典型的な例として、波多地区の活動が挙げられる。旧波多小学校を交流センターにして様々な活動を展開している。

地域内での福祉サービス、移動の為の手段として「たすけあい号」という車を用意するなど、様々なことを行なっている。これからもこのような取り組みを地域で行なっていかなければならない。雲南市全体で展開していかなければならないと思っている。(市長)

[再質問]

言われたことは判った。今後市の職員が、現場を歩いたり、声を聞けるシステムは残しておいて、ハード面で集約できるところは集約し、メリハリをつけながら、できるだけ総合センターの機能が充実されるようお願いしたい。

A

そういったことは必要で、今総合センターの地域づくり担当職員がこれからもがんばっていくと思うのでぜひ活用していただき、色々な相談に出させていただきます。(市長)

Q 1 2 2 [空き公共施設の活用について]

掛合体育館の修繕工事を行なってもらい嬉しく思っている。掛合では200人以上が集まることのできる会場は他にない。

中町の近辺には、旧掛合保育所、旧掛合郵便局がある。高速道路工事の関係で家を探していたため、旧掛合郵便局を貸してもらえないかと総合センターに相談したところ、市の関係なら貸しだせるが、民間なら貸し出せないということであった。このような空き施設を今後どのように活用していくのかお聞きしたい。

A

空き施設の活用についてであるが、合併効果を申し上げたが、合併にともない公共施設の空き施設が増えている。公共施設は約300あるが、これをいかに有効活用していくかということで、総合センターに相談したら公共には貸しだせるが、民間には貸し出せないという回答をしたようなので、あとで確認をするつもりである。民間に貸さないという法律はないので、状況を把握し、対応できるところは対応をして有効活用を図っていききたいと思っている。(市長)

旧郵便局は、掛合総合センターの分庁舎であり、現在あそこには県から預かった広域農道の設計図書があり、これらを片付ける必要があり県とも相談をしているところである。申し訳ないがご理解いただきたい。(掛合総合センター)

そういった事情のようであるが、有効活用できるものは有効活用をしていきたい。ケースバイケース、早急に対応したいと思う。(市長)

掛合町多根地区

Q 1 2 3 [事業着手の順序について]

私の認識不足かもしれないが、合併当時から予算書を見ると予算の多くが、40から50%近くが大東へ流れているように感じる。ライフライン等を大東がやっていなかったというのも大きな原因かと思うが、それにしても、もう少し全体を見た予算というか、議員さんは数の論理で動かれるのかも知れないが、市役所の皆さんはもう少し全体を見た政治をやってもらえないだろうかという気がしているのは私だけではなくして、恐らく多くの人がそう思っているのではないかと思う。大東の皆さんに話を聞いても、言ってみるところ、やってくれたというような楽な話をどうもちよいちよ聞いていて、その辺は本当かうそか分からないけれども、掛合も小学校を作っていたり、入間も道路が整理されつつあ

るが、それ以後本当に物がきれいになるとか、できたとかそういった話も聞かない。先ほどの話ではないが申請を出しても建設順序が回って来ないという回答ばかりが帰ってきて、取り合ってもらえないような状況なので、ぼちぼち掛合や吉田のような山奥の方にも予算が回るような方向付けをしていただけたらと思っている。きちんとした見方を私はしていないかもしれないが、一般的にはそういった目で見られるのではないかと考えているところである。

A

大東へ予算が偏りすぎではないかということだが、言ったらすぐにやってくれた、ということは恐らくないと思う。雲南市が合併して以来、考え方の軸に置いているのは、事業費の平準化ではなくて、社会基盤の整備率をいかに平準化するかということである。大東は150平方キロという掛合よりも広大な面積であるだけに、上水道、下水道に至っては本当にこれから整備する状況であり、その率を掛合並に持つてくるにはまだまだ時間も、お金もかかる。従って基盤整備率を高めるためにはどうしても、面積が広いので、そちらに事業費としては、大きなものが行かざるを得ないということがある。

特に掛合の場合には、合併前に道路の改良率も整備率も、上水道も下水道も6町村の中でトップクラスの整備率だっただけに、率の平準化を高めていくという視点からすると、どうしても事業費は少なくなっているということはあるが、道路のいろいろな整備箇所も確かにあるので、継続事業が済み次第、逐次取り掛かりたい。それからオンリーワン、オンリーワンという言葉はこれからは使わずに、雲南市の地域自主組織の拠点整備、そうした事業を逐次やって行くので、確かに合併前の整備率が高いところは、それだけ雲南市になってからは事業費が回っていない。そういうことで率の平準化を目指してやっているのでもよろしくお願ひしたい。(市長)

掛合町松笠地区

Q124 [財政健全化対策について]

雲南市では自主財源が非常に乏しい状況である中で、増税をする考えはないか伺いたい。掛合町では昭和38年当時、固定資産税率1.8という負担の時代もあった。雲南市では固定資産税率も統一になったところだが、住民に増税について理解を求めるといふ考えはないのか。また、軽自動車税についても現在は標準税率のままであるが、税率を上げる考えはないか。

A

合併した当時の固定資産税率は1.45~1.6であったが、現在は1.55に統一している。自主財源を確保するために増税してはというご意見についてだが、雲南市の自主財源の割合は15%前後とかなり低く、少し税率をアップさせたからといって財源が豊かにはならない。安易に増税ということは考えていない。(市長)

掛合町入間地区

Q125 [総合センター事業管理課の縮小について]

総合センターにおける事業管理課の縮小についてお聞きしたい。行政改革等で職員の削減が進められていると伺っているが、それに伴い総合センターの事業管理課が縮小されると聞いている。周辺にいる我々は事業管理課という直面している課題が多い課である。我々は一次産業の農業、林業を中心に行なっているが、そのあたりの窓口対応がしっかりとされるのか、どのような対応が行なわれ、縮小がどのような時期から行なわれるのか伺いたい。

A

総合センターの事業管理課の縮小についてであるが、総合センターを今後、どのように位置づけていくのか、3月定例会で市長からも説明があったように22年度中にその方向をつけていきたいと考えている。ただ、これは24年度で財政非常事態宣言を解消していく方向で進めている。

今後、庁舎建設の問題をどう扱っていくのか。建設については26年度をひとつの区切りとしており、これは合併特例債が使えるタイムリミットである。

財政的に庁舎建設が可能な場合の総合センターの取り扱い、逆に困難な場合の総合センターの取り扱いということで、本年度中に方向付けをしていきたい。個別の事業管理課をどうするのかということは、今

日の時点ではお話することができないが、いずれそうした方向性をきちんとしていかなければならないことは間違いないのでもう少しの時間をいただきたい。(政策企画部)

三刀屋町飯石地区

Q126 [財政状況について]

財政健全化は支出を抑えていくことですか。次の世代に負担を残さないようにとあるが、若い人は少なくなる一方。三刀屋町に市外から来ていただくようにするにはどのようにお考えですか。

A

合併し、約5年8カ月で約90億の借金を一生懸命返しました。また職員の数も徐々に減らして、約100名職員の数も少なくなりました。さらに、6町にある不要になった建物や土地など約300ありますが、今後処分していき、歳出の削減を図る一方、積極的なまちづくりを展開しつつ、スリム化を図っていき、バランスに気をつけ政策をうまく混ぜ合わせながらやっていきます。(市長)

加茂町立原、近松・南大西、三郷の会、宇治、宇治団地、宇治亀山団地地区

Q127 [市の事業の地域バランスについて]

加茂町での事業が少ないように思います。他町とのバランスをとっていただきたい。

A

加茂町は合併前から上下水道等の整備が進んでいきましたが、他町は整備が遅れていました。雲南市の整備率の平準化を図る中で加茂での事業が少ないという点ではありますが、加茂の強みを生かした新しい雲南市の魅力づくりを行っていきます。雲並に続く住宅地の整備など、加茂町の立地を生かした事業を展開しています。(市長)

[再質問]

雲南市の中の加茂町としてのこれからの目指すべき姿を示していただきたい。そのことによって、住民も街づくりへの意欲が湧いてくると思います。

A

現在、後期の総合計画を立てている最中ですので、その中で住民の皆様に具体的なものを示していきたいと思っています。(市長)

木次町新市地区

Q128 [総合センターの縮小について]

法務局が移転してなくなり、県の合同庁舎も縮小するなど、ひずみができている。木次総合センターも6~7人にするという話を聞いたが、することが反対ではないか。逆に総合センターに職員をもっと増やすべきではないか。イベントや祭りがある中で、組織が弱体化していく中で総合センターにはぜひとも協力してもらう必要がある。商工会も弱体化しており、交流センターや自治会も利用していかなければなくなる。総合センターをなくして地域が減んだら、市役所本庁を建てても意味がない。総合センターの縮小はやめて職員を増やしてほしい。

A

おっしゃるとおり地域が衰退してはなりません。雲南市合併の要素として、生活圏域と行政圏域が合わなくなってきた背景があります。例えば木次に住みながらみしまやへ行ったり、高速道路で松江へもすぐに行けます。どこへ行っても同じ町内という感覚です。確かに吉田や掛合などそういうところばかりではないですが、おおむね旧大原と三刀屋については役場が1つあればあまり時間が変わりません。生活圏域が行政圏域よりずいぶん広がっており、合わせていこうというのが合併の大きな理由です。これが実現すれば役場は1つで良く、6つが1つになれば財政的にも少ない職員数で済むという効果があります。しかしあまりそれを追求めて周辺に賑わいがなくなってしまはいけません。スケールメリットを生かし、1つ1つでは取り組めなかった事業に取り組む新しい産業をおこすことができます。木次の桜まつりも一橋大学や早稲田大学から学生が来て手伝ってくれており、これも合併のスケールメリットです。総合センターの職員減を補ってあまりある賑わいを作っていくことが求められると思いますので、そういう認

識をぜひ共有したいと思います。(市長)

木次町斐伊地区

Q129 [各町ごとの公共投資額について]

合併以来、市の予算が旧町村ごとにどれだけ使われてきたのか。「よくわかる予算説明書」に書いてほしい。合併後市の予算が毎年どれだけ旧6町へ配分されてきたのかを知りたい。規模が違うので平等というわけにはいかないが、それぞれいくらつぎ込まれてきたかのがわかって良い。

A

公共事業については把握できますが、ソフト事業などは区切りのつけ方が難しいです。公共事業については平成19年度くらいまでは町別の割合を公表してきましたが、市になってしばらく経ったので、総合計画を作り平成19年度～22年度までを前期計画、平成23年度～26年度を後期計画として市全体の事業としてやっております。数字については別途お知らせしたいと思います。木次町は配分が多いほうだと思います。(市長)

大東町久野地区

Q130 [財政計画について]

合併して大変な状況の中、平成24年度から収支均衡の方向ということで先般後期基本計画の説明を受けた。計画に対しての財源が大変であろうと心配している。この膨大な計画を進めるとなると、財政計画を立てないといけないと思うがどうか。

A

雲南市がスタートして新市建設計画を立て、総合計画、これは前期後期基本計画を分けて立てている。後期は23～26年度の4年間だが盛り込む事業は膨大で、実現のために年次ごとにふりわけて具体的な実施計画を立てる。これは財源の裏付けが必要なもので実施計画を実現可能にするための財政計画を立てて行く。後期基本計画の中身についてこの年末には議会のご理解をいただかなくてはならない。財源については国からの地方交付税、補助金がある。補助金については使途限定となっているが、国は何にでも使える一括交付金化をやろうとしている。それ以外に民間資金の有効活用、自主財源を使いながら実施計画が可能となる財政計画を立てて、年ごとに見直して計画的に進めている。今後もそのように進めて行く。(市長)

大東町大東地区

Q131 [一括交付金制度への対応について]

今や行政は競争時代、国で考えられているのは一括交付金制度、資金使途、自分責任で、今までは紐付のものが多かったが、これからは一括交付金になる。市の住民の皆さんの意向でどうにでも可能になる。先ほど人口の話をしたが競争の時代になって、何が勝ち、何が負けかバロメーターは何かといえば、人口が増えたこれが一番だと思う。人口が増えるところは何の理由があるか、そういう町づくり、地域づくりをする必要があるのではないか。

A

行政も企業と同じという話、まったくその通りで企業も行政も目指すのは、地域に還元し社会に貢献すること、行政は住民サービスの向上と行き着くところは同じ思う。したがって、行政も企業経営と同じ手法をとって効果的な経営をしていかないといけないと思っている。交付金化については、現在28億円だそうでどうなるかと思っているところだ。交付金化によって活用しやすい実態が実現すれば喜ぶべきだと思うので、交付金化になるよう期待している。(市長)

Q132 [市有財産の遊休資産について]

今、雲南市に遊休資産はどれだけあるのか、その有効活用について検討されているのか、住民の利用による策定化は望めないのか、処分による遊休資産の有効活用及び積極的な処分により、地域の活性化と市の財政健全化に取り組むべきではないか提起する。

A

遊休資産がどれ位あるかということについては、今年度から来年度にかけて公有資産の台帳整備に取り組んでいるところで、今年度中には遊休資産が明らかになる。公有施設の建物は、270近くありこれについては現在廃止するもの、譲渡するものに仕分作業を行っている。今後、また関係する地域については、詳細が決まった段階で協議をさせていただきたい。

特に土地関係で、普通財産の売却については現在準備を進めている。福祉関係の施設、特に加茂町の宇寿荘、笑寿園は、土地の売却を昨年行った。住民サービスの低下防止と職員のアイデアと意識改革については、職員の提案制度など合併時から取り組んでおり、今年も26件程職員の提案が出され、今後審査を行って予算措置あるいは事務体制に絡んだものは取り組んでいくよう現在検討を行っている。(総務部)

Q133 [遊休資産の処分のプロセスについて]

遊休資産を、今年中に明らかにするとか、協議するとか言われたが、それは「いつ」「どのように協議して」「どういう結果をどう方法で報告されるのか」、例えば自治会長会に報告するとか、その方法ということについてはこのことだけではなく、今日の市政懇談会も「去年と同じことを言っておられる」と思っておられる方もおられ、一つ一つ答えを文書などで示していただくことが必要ではないかと思う。

A

市政懇談会の結果には、今回で29回目になり、回答した事についてはまとめたものがある。「平成22年度市政懇談会対応マニュアル」で吉田、掛合、三刀屋町がすべて終わっているので、今年度市政懇談会が終わった後に広報等でお知らせしたい。(市長)

Q134 [事業仕分けと職員の意識改革について]

最近市役所へ要望を出してもお金が無いなど住民サービスの低下が著しい。「お金が無いから仕方がない」という意識があるのではないか。職員が無駄を省き、収入を増やす手立てを本気で考えていないのではないかと思われる。事業仕分けは出来ないか、要は財政の健全化と住民サービスの低下防止、職員のアイデアと意識改革が望まれるということ提起する。

A

計画・決算を事業仕分けでチェック出来ないかということ、平成19年から事務事業の評価システムを導入して4年を迎えるところだが、基本計画の施策が40本あり、その施策にはそれぞれ事務事業が1,100程度ある。4月以降に大体決算の目途がたつと、1,100の事業をそれぞれの課毎に再評価を行い、今後その事業がどう展開されていくのか検証する。施策毎に課長級で会議し再評価を行って、部長級、三役を含めた施策会議で最終的に施策の優先度のチェックをしていく。1,100の事業は、それぞれ事務事業マネジメントシートを作成して評価を行う。したがって、事務の仕分けについては市役所の内部で構築して課長と一緒に進んでいるが、時間と労力が必要な作業で、短時間の間にどう進めて行くのが課題となっている。(政策企画部)

大東町幡屋地区

Q135 [補助金の一括交付金化への対応について]

今までは交付税や国土交通省の補助金で入っていたのが今後は一括交付金制度に代わる。一括交付金になった時に雲南市の財政改善になるのか行政的な有効活用といったものはどう考えておられるか。

A

新政権になって補助金の一括交付金化と言われ、そのように進むと思っている。しかし、一括交付金化して補助金があった時よりもトータルが増えることを期待しているが、出ていた補助金の額よりも少なくなりそうだという懸念がもたれている。それなら一括交付金化にならない方がいい。一括交付金化は歓迎するけども、これまでの補助金をトータルした額よりも多いものにしてもらわなければいけないよということを強く言っていかなければいけない。(市長)

Q136 [健全財政に向けた取り組みについて]

雲南市の借金は600億くらいかと思っていれば800億もあるということで、個人的に計算すると赤字から200万位になる。何年たつたらなくなるのか心配だ。スクールバスは教育委員会で勉強されてもっと半分で済むようにして欲しい。市役所へ行くと電灯がたくさん付いている、8時半になると電灯をつけて休憩になると消す。そうすれば800億の数字は出ないのではと思う。税金でも滞納者がある医療

費が払われない給食費が払われない。この始末をきちんとしないと大変なことになる。監査は厳しくやらないと、教育委員会の監査委員は本当に楽にやっていた、目を通さずに信用していたのか。われわれから見るとまだやり方があるのではと思う。

A

雲南市も照明をつけたり消したり、勤務時間中は最小限つけて休みになると消す。本庁でも総合センターでも励行しているのでまた消した時に来ていただければ、そうかと思っていただける。(市長)

それから教育委員会の監査はいい加減であったのではないかと言うご指摘はごもっともで、これについては今後十分なチェック体制なり複数の者でチェックするように再発防止に努めて行くのでご理解いただきたい。(教育委員会)

[再質問]

他の町村で800億600億と言う話題が出ずにここでは出る、どう考えたらいいものか。大東の人はその事に余計に関心があるということか。

A

特別会計を入れるとそうなるがそれは事業をやりながら返済をしていく、借金を返しながら経営をやってその経営が黒字だったらいい訳でそういうものを全部ひくくめた額が今の8百数十億は間違いない。けれど一般会計でいうと472億、それらについては90億強を返して来ているので、問題は事業をやらないと返せない。それは毎年度黒字決算をして黒字になった額を持ってその内のいくらかを借金の返済に充てるということで、一般会計の借金額で捉えていただければいくらかほっとされるのではないかと思う。水道事業でも事業をやるには金が要る、どうしてやるかと言うと借金してやるしかない。それで水道料金水道使用量を持って水道会計が黒字になる。それで借金を返済していく。借金をやって事業をやっていくのが大体の特別会計である。色々特別会計があるが、事業をやって借金を返していくと言うのが正常な姿だと思っている。(市長)

Q137 [財政健全化目標の達成見込みについて]

私が一番気にしているのは市長の話にあった財政健全化への不退職の決意で財政基盤を確立するということだが、やっぱり雲南市にとって急務の事だと見えるので全力を挙げてもらって将来に禍根を残さないようにしてほしいと思う。例えば総合センターのあり方とか冒頭、話に出ていた温泉施設を一つにするとか、似たような温泉施設がいっぱいあるがこれを全体的にどのように取り組んでいくかお聞かせいただきたいと思う。総合センターへ相談するけれども、本庁へ聞かねばわからないとか言っている。電気は時間内と言われるが、あの辺を通ると総合センターは夜の残業をあんなにしなければいけないのか。夜煌々と電気が点いている。そういう小さな所に目を配って取り組んでいただきたいと思う。当初市長が言っておられた財政健全化の目標というものはほぼ達成出来る見込みがあるのか、今後に対する市長の決意を聞かせてもらいたい。

A

財政健全化対策が喫緊の課題なので、3つの課題の一つに掲げているように最重要課題である。一つの目標として平成24年度に歳入の範囲内で歳出を賄うこれについては必達でやる覚悟で臨んでいるし、達成出来るものと思っている。今後も国の地方に対する厳しい対策が講じられようとしている、その一つに合併して10年経ったら交付税の算定の仕方を見直すと言っている。その見直しが実施されると今までのやり方で約30億交付税が減る、一生懸命財政健全化努力を続けた努力がどこへ行ったのかわからない状況となりかねないので政権が代わったことをてこととして、もっと地方の実態を見て下さいと強く国へ言っていきたい。これは雲南市だけではなく、10年経ったら交付税のあり方を見直すというのは全国的な課題なので、市長会町村会等を通じて国へ強く言っていかなければならないことだと思っている。しかしそれがあつたとしても、それに耐えうる財政体質というものはしっかり構築していかなければならないと思う。(市長)

Q138 [市財政の健全化について]

中学校が建ってから10周年記念を今度する、備品などで何百万のお金を集めないといけないとのこと
でお願いに歩かれた。西小学校の30周年記念の寄付集めもあった。寄付は集めるのも出すのも大変で、
もう少し市で蓄えておいていただきたい。

A

今、西小学校の事は初めて聞いたが、大東中学校10周年で寄付金を集めていらっしゃるという話は、
スタートしてしばらくしてから情報をキャッチした。市は、学校施設など公共施設が約300近くあり、
その中で維持修繕が必要な所については重点的にやらなくてはいけないので、順位をつけて対応してい
る。従って、学校施設などの公共施設で何十周年を迎えた、記念にというポケットのお金がまだ用意でき
ていない。雲南市のポケットにこれからそういうゆとりを持って経営ができるよう、貯金をしながら健全
運営をやって、あと20年ぐらい経ったら、10周年記念ですか20周年記念ですかとポンと出せるよう
に、先を見越した財政運営をやって行かねばと思う。(市長)

大東町佐世地区

Q139 [総合センターの体制について]

合併して総合センターが遠く感じる。地域との関わりが遠くなる感がある。総合センターの職員も減り、
地域から相談を持ちかけても職員も大変だと思う。大東町内に8か所交流センターがあるのに対し地域担
当職員は1名だが、もう少し地域と行政を結ぶことに取り組んでほしい。

A

合併前と比べると総合センターの職員数は減っているが、本庁の機能は強化している。総合センターが
行政の窓口としてパワーダウンにならないために、地域づくり担当職員を1名ずつ配置している。また中
学校には教員支援コーディネーター、社会教育コーディネーター、地域コーディネーターと3人のコーデ
ィネーターを配置している。これらが総合的に力を発揮して佐世地区が元気になる町づくりにこれからも
力を入れていきたい。宜しく願いしたい。またご提言をいただきたい。(市長)